

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「日本SRIオープン（愛称 絆（きずな）」）は、このたび、第13期の決算を行いました。

当ファンドは、日本SRIマザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、投資信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第13期末(2018年8月13日)

基準価額	10,594円
純資産総額	1,924百万円
第13期	
騰落率	10.9%
分配金(税引前)合計	400円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

日本SRIオープン 愛称 絆（きずな）

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2017年8月15日～2018年8月13日

交付運用報告書

第13期（決算日 2018年8月13日）

 **岡三アセットマネジメント**
〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

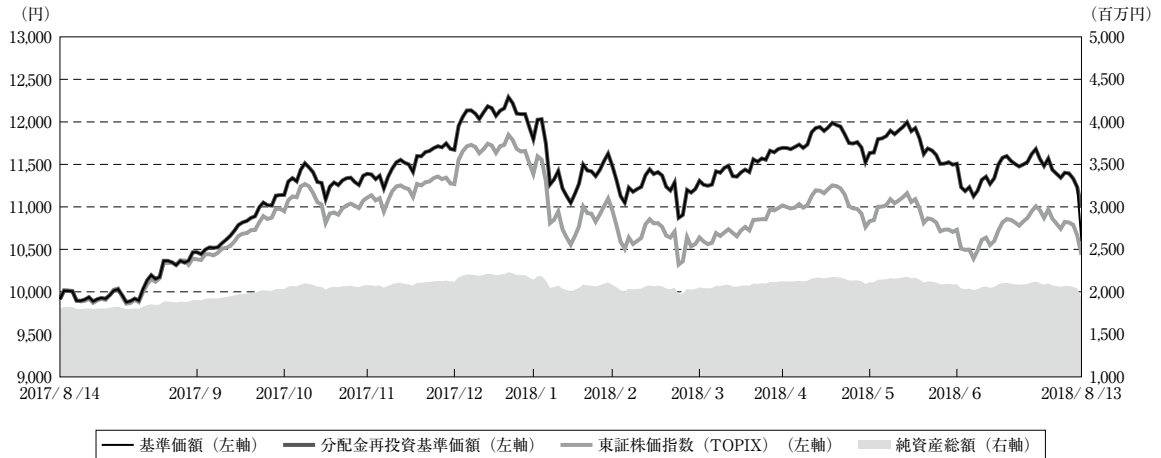
<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様の負担となります。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年8月15日～2018年8月13日)



期 首：9,913円

期 末：10,594円 (既払分配金 (税引前)：400円)

騰落率：10.9% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、東証株価指数 (TOPIX) です。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首 (2017年8月14日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「日本SR I マザーファンド (以下、マザーファンドといいます。)」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、電気機器、精密機器、その他製品などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、島津製作所、丸井グループ、資生堂などが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、食料品、繊維製品、非鉄金属などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、東レ、DOWAホールディングス、商船三井などが基準価額にマイナスに影響しました。

また、当ファンドにおいては信託報酬などのコストが基準価額にマイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細

(2017年8月15日～2018年8月13日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	円 170 (75) (85) (10)	% 1.508 (0.668) (0.754) (0.086)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	16 (16)	0.137 (0.137)	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用) (その他)	1 (1) (0)	0.011 (0.011) (0.000)	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託支払手数料
合計	187	1.656	
期中の平均基準価額は、11,298円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年8月12日～2018年8月13日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)です。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2013年8月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年8月12日 期初	2014年8月11日 決算日	2015年8月11日 決算日	2016年8月12日 決算日	2017年8月14日 決算日	2018年8月13日 決算日
基準価額 (円)	7,166	8,009	10,187	8,248	9,913	10,594
期間分配金合計(税引前) (円)	-	0	100	0	0	400
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	11.8	28.4	△19.0	20.2	10.9
東証株価指数(TOPIX)騰落率 (%)	-	10.4	34.7	△21.6	20.8	5.3
純資産総額 (百万円)	1,381	1,489	1,858	1,509	1,803	1,924

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

投資環境

(2017年8月15日～2018年8月13日)

国内株式市場は上昇基調で推移しました。期初から2018年1月にかけては、北朝鮮問題や米トランプ大統領の政権運営を巡る混乱があったものの、グローバル景気の先行きに楽観的な見方が広がる中、企業の好決算や業績見通しの上方修正などを好感し、ほぼ一貫して上昇基調を辿りました。2月に入ると、米雇用統計をきっかけに米長期金利が急騰し、世界的な株安となったことに加え、トランプ政権が保護貿易主義を強めたことなどから、3月にかけて下落しました。その後は、好調な米国経済や円安の進行、地政学リスクの後退などを背景に下げ止まり、期末にかけてもみ合う展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年8月15日～2018年8月13日)

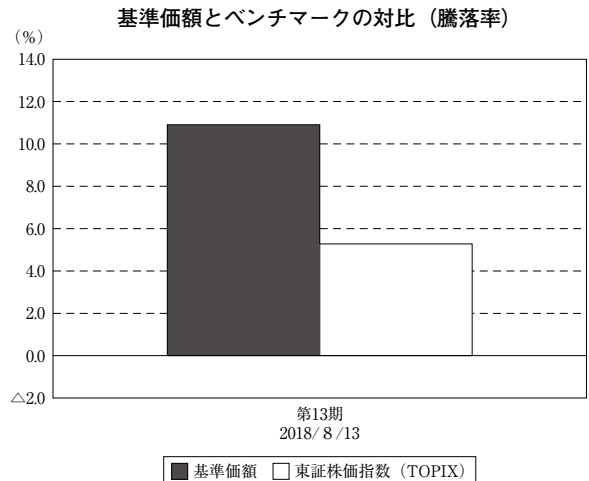
当ファンドの運用はマザーファンドを通じて行いました。

マザーファンドの運用につきましては、企業の社会的責任（CSR）に関する取り組みに優れ、株価が割安と判断される銘柄によりポートフォリオを構築しました。ミッションである「夢・遊び・感動」の実現に向けたCSRを展開し、テクノロジーの進化や新興国の成長によるIP（アニメ、ゲーム、キャラクター等の知的財産）の価値の高まりを背景に持続的な成長が期待されるバンダイナムコホールディングス、治療を必要とする人々に対する高品質な医療機器の安定的供給を通じた中長期的成長が期待されるテルモ、コーポレート・ガバナンスの強化に努め、市況変動の影響を抑制し安定的に成長する戦略に舵を切った商船三井などを新規に組み入れました。一方、株価の割安度やポートフォリオ全体のリスクなどを考慮し、ソフトバンクグループ、トヨタ自動車、カブコンなどを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年8月15日～2018年8月13日)

分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、ベンチマークとしている東証株価指数（TOPIX）の騰落率を5.6%上回りました。この要因を分析すると、環境や安全に対する意識の高まりを背景に業績が予想を上回る進捗を示していることに加え、少量の血液によりアルツハイマー病を判定する検査法を開発したとの報道などが好感された島津製作所や、国内や中国における高級化粧品事業が好調であることや、しわを瞬時に隠す人工皮膚（セカンドスキン）など最先端技術が牽引し、今後の成長が期待される資生堂などがプラスに寄与しました。一方、新興国における環境規制強化を背景に環境リサイクル事業などを牽引役とする成長が期待されるDOWAホールディングスや、環境対応自動車向け二次電池事業の伸長が期待される東レなどは、マイナスに影響しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）です。

分配金

(2017年8月15日～2018年8月13日)

当ファンドは、毎年8月11日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益とします。分配金額は、分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。

当期の分配につきましては、1万口当たり400円（税引前）とさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第13期
	2017年8月15日～ 2018年8月13日
当期分配金	400
(対基準価額比率)	3.638%
当期の収益	168
当期の収益以外	231
翌期繰越分配対象額	3,011

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドはマザーファンドの運用指図に関する権限を「富国生命投資顧問株式会社」に委託しております。

気候変動や水不足など地球環境問題が深刻化し、コンプライアンス違反による企業価値毀損が後を絶たない中、世界的に環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に着目した投資が拡大しており、日本においてもコーポレート・ガバナンスコードなどの導入・改訂がなされ、投資尺度として企業のCSRに関する評価がこれまで以上に重視されつつあります。

当ファンドの運用はマザーファンドを通じて行ってまいります。マザーファンドの運用につきましては、直接取材によるCSR評価と財務評価をベースに運用を行い、中長期的にベンチマークのTOPIXを上回る収益獲得を目指します。具体的には、より良い社会の構築という観点から、CSRの取組みに優れ、社会的厚生を高めつつ企業価値向上が期待される銘柄で、株価が割安な銘柄に投資します。保有銘柄につきましては、不祥事が発生した場合は、調査・再評価の上、売却を検討するほか、建設的な「目的を持った対話」（エンゲージメント）を通じて、投資先企業の企業価値向上を促すことにより、中長期的な投資リターンの向上を図ります。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

お知らせ

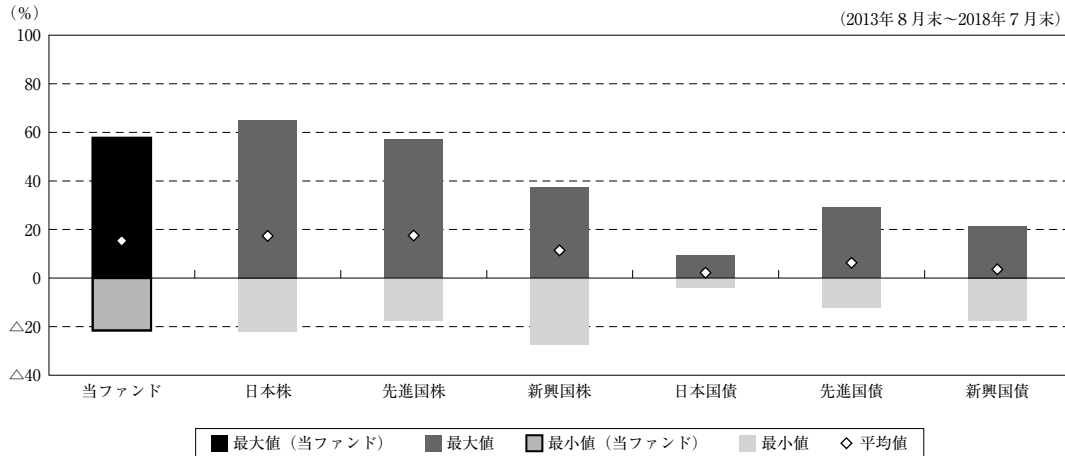
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2005年8月12日から、原則として無期限です。	
運用方針	日本SRIマザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、投資信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	日本SRIマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	日本SRIマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち、社会的責任を果たすことにより、持続的に成長する可能性が高いと考えられる企業の株式に投資し、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）を中長期的に上回る投資成果を目指して運用を行います。 CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）面の評価を、財務面での評価に加えて行うことにより、全方位から企業を評価します。 運用指図に関する権限を富国生命投資顧問株式会社に委託します。 ポートフォリオ構築に際しては、ボトムアップアプローチによる企業価値評価により、投資価値が高いと判断される30～50銘柄程度を選定しアクティブ運用を行います。
分配方針	<p>毎年8月11日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき、収益分配を行います。</p> <p>分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。</p> <p>分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。</p> <p>分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。</p>	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	57.7	65.0	57.1	37.2	9.3	29.1	21.4
最小値	△21.6	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	15.3	17.3	17.5	11.4	2.2	6.2	3.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年8月から2018年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年8月13日現在)

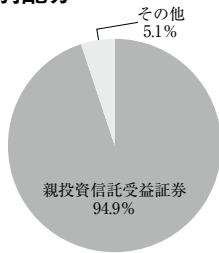
○組入上位ファンド

銘柄名	第13期末
日本SRIマザーファンド	94.9%
組入銘柄数	1銘柄

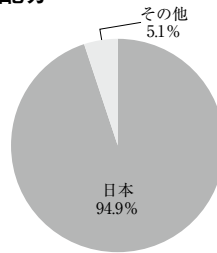
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

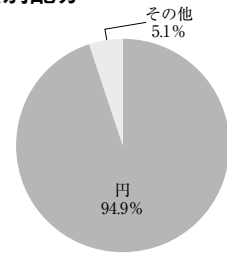
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

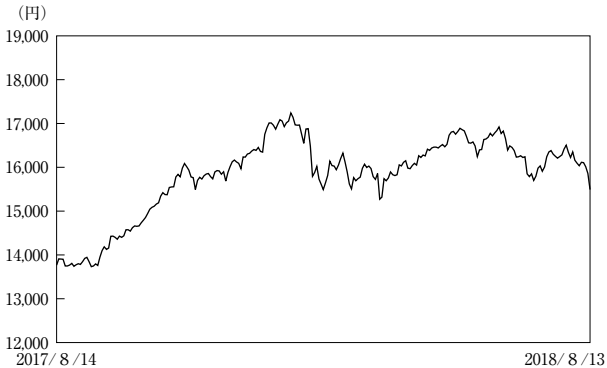
項目	第13期末
	2018年8月13日
純資産総額	1,924,196,432円
受益権総口数	1,816,280,515口
1万口当たり基準価額	10,594円

(注) 期中における追加設定元本額は9,874,099円、同解約元本額は12,583,256円です。

組入上位ファンドの概要

日本SR I マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2017年8月15日～2018年8月13日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株式)	22 (22)	0.139 (0.139)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	22	0.139

期中の平均基準価額は、15,850円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

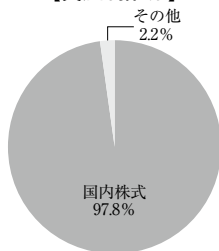
【組入上位10銘柄】

(2018年8月13日現在)

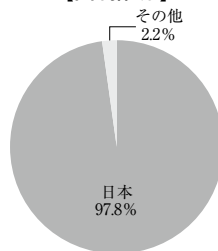
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 島津製作所	精密機器	円	日本	3.8
2 日本電信電話	情報・通信業	円	日本	3.8
3 バンダイナムコホールディングス	その他製品	円	日本	3.6
4 日立製作所	電気機器	円	日本	3.3
5 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	3.1
6 スズキ	輸送用機器	円	日本	2.9
7 テルモ	精密機器	円	日本	2.7
8 伊藤忠商事	卸売業	円	日本	2.7
9 ヤマハ	その他製品	円	日本	2.7
10 豊田自動織機	輸送用機器	円	日本	2.7
組入銘柄数			46銘柄	

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

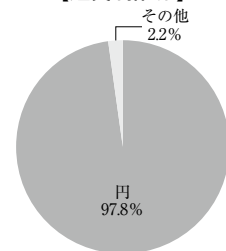
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

